

僕の昔

夏目漱石

青空文庫

根津ねづの大観だいかん音のんに近く、金田夫人の家や二弦琴にげんきんの師匠や車宿くるまどや、ないし落雲館らくうんかん中学などと、いずれも『吾輩わがはいは描ねこである』の編中でなじみ越しの家々の間に、名札もろくにはつてない古べいの苦沙弥くしゃみ先生の居きよは、去年の暮れおしつまつて西片にしかた町まちへ引き越された。君、こんどの僕の家は二階があるよと丸善の手代みたように群書堆裡ぐんしよたいりに髭ひげをひねりながら漱石子そうせきしが話していられると、縁側えんがわでゴソゴソ音がする。見ていると三毛猫の大きなやつが障子しょうじの破れからぬうと首を突き出して、ニヤンとこちらを向きながらないた。

あの猫はね、こつちへ引きこしてきてからも、もとの千駄木の家へおりおり帰って行くのだ。この間も道であいつが小便をたれているところをうまくとつつかまえて連れて戻った。やっぱしもとの家というものは恋しいものかなあ。——何、僕の故家いえかね、君、軽蔑けいべつしては困るよ。僕はこれでも江戸っ子だよ。しかしだ**いぶ**江戸っ子でも幅のきかない山の手だ、牛込の馬場下で生まれたのだ。

おやし父親は馬場下町の名主なぬしで小兵衛といった。別に何も商売はして**いな**なかったのだ。何でもあの名主なんかいうものは庄屋と同じく**ゴタゴタ**して、収入などもかなりあったものとみえる。ちようど、

今、あの交番——喜久井町きくいちやうを降りてきた所に——の向かいに小倉おぐら屋らやという、それ高田馬場の敵討あだうちの堀部武庸たけつねかね、あの男が、あすこで酒を立ち飲みをしたとかいう榎ますを持つてる酒屋があるだろう。そこから坂のほうへ二三軒行くと古道具屋がある。そのたしか隣の裏をずっとはいると、玄関構えの朽ちつくした僕の故家いえがあつた。もう今は無くなつたかもしれぬ。僕の家は武田信玄の苗裔いえずじだぜ。えらいだろう。ところが一つえらくないことがあるんだ。何でも何代目かの人ひとが、君に裏切りとかをしたということだ。家の紋もんは井桁いげたの中に菊の紋だ。今あのへんを喜久井町というのは、僕の父親おやじがつけたので、家の紋から、菊井を喜久井とかえたのだそうな。こんなことはそうさなあ、明治の始めごろの話だ

ぜ、名主というものがまだあった時分だろうな。

名主にはたいとう帯刀ごめんとそうでないのとの二つがあったが、僕の父親はどっちだったか忘れてしまった。あの相模屋さがみやという大きな質屋と酒屋との間の長屋は、僕の家の長屋で、あの時分に玄関を作るのは名主にだけは許されていたから、名主一名お玄関様という奇抜きぱつな尊称を父親はちようだいしてさかんにいばっていたんだろう。

家は明治十四五年ごろまでであったのだが、兄あにきらが道楽者でさんざんにつかって、家なんかは人手に渡してしまったのだ。兄きは四人あった。一番上のは当時の大学で化学を研究していたが死んだ。二番目のはずいぶんふるった道楽ものだった。唐とうざん棧の着

物なんか着て芸者買いやら吉原通いにさんざん使つてこれも死んだ。三番目のが今、無事で牛込にいる。しかし馬場下の家にはない。馬場下の家は他人の所有になつてから久しいものだ。

僕はこんなはずぼらな、のんきな兄らの中に育つたのだ。また従兄にも通人がいた。全体にソワソワと八笑人か七変人のより合いの宅みたよに、一日芝居の仮声をつかうやつもあれば、素人落語もやるというありさまだ。僕は一番上の兄に監督せられていた。

一番上の兄だつて道楽者の素質は十分もつていた。僕かね、僕だつてうんとあるのさ、けれども何分貧乏とひまがないから、篤行の君子を気取つて描と首っ引きしているのだ。子供の時分に

は腕白者わんぱくものでけんかがすきで、よくアバレ者としかられた。あの穴八幡あなはちまんの坂をのぼってずっと行くと、源兵衛村げんべえむらのほうへ通う分わかれ道かみちがあるだろう。あすこをもっと行くと諏訪すわの森の近くに越え後様ちごさまという殿様のお邸やしきがあった。あのお邸の中に桑木巖げんよく翼よくさんの阿母あぼさんのお里があつて鈴木とかいった。その鈴木の家の子がおりおり僕の家へ遊びに来たことがあつた。

僕の家うちの裏には大きな棗なつめの木が五六本もあつた。『坊っちゃん』に似ているつて。あるいはそうかもしれんよ。『坊っちゃん』にお清という親切な老婢ろうひが出る。僕の家にも事実はあるんな老婢らうひがいて、僕を非常にかわいがつてくれた。『坊っちゃん』の中に、お清からもらつた財布さいふを便所へ落とすと、お清がわざわざそれを拾

つてもつてきてくれる条くだりがあつた。僕は下女に金をもらつた覚えはないが、財布のひとつくんだり一條は実地の話だつた。僕の幼おきなとも友だちで今、名を知られている人は、山口弘一という人だけだ。この人はたしか学習院の先生かなんかしていられるということだ。くわしくは知らぬ。

そのうちに僕は中学へはいつたが、途中でよしてしまつて、予備門へはいる準備のため駿河台にそのころあつた成立学舎へはいつた。そのころの友人にはだいぶえらくなつたやつがある。それから予備門へはいつた。山田美びみょう妙斎とは同級だつたが、格別心やすうもしなかつた。正岡とはその時分から友人になつた。いっしよに俳句もやつた。正岡は僕よりももつと変人で、いつも氣に

入らぬやつとは一語も話さない。孤こ峭しょうなおもしろい男だった。どうした拍子か僕が正岡の氣にいったとみえて、打ちとけて交わるようになった。上級では川上眉山びざん、石橋思案しあん、尾崎紅葉こうようなどがいた。紅葉はあまり学校のほうはできのよくない男で、交際も自分とはしなかった。それからしばらくすると紅葉の小説が名高くなりだした。僕はそのころは小説を書くこうなんどとは夢にも思っていないかったが、なあにおれだつてあれくらいのものはすぐ書けるよという調子だった。

ちょうど大学の三年の時だったか、今の早稲田わせだ大学、昔の東京専門学校へ英語の教師に行つて、ミルトンのアレオパジチカというむずかしい本を教えさされて、大変困つたことがあつた。あの

早稲田の学生であつて、子規や僕らの俳友の藤野古白こはくは姿見橋——
—太田道灌どうかんの山吹やまぶきの里の近所の——あたりの素人屋しろうとにいた。
僕の馬場下の家とは近いものだから、おりおりやつてきて熱烈な
議論をやつた。あの男は君も知っているだろう。精神錯乱で自殺
してしまつたよ。『新俳句』に僕がああ男を追懐して、

思ひ出すは古白と申す春の人

という句を作つたこともあつたつけ。——その後早稲田の雇われ
教師もやめてしまつた。むろん僕が大学学生中の話だぜ。その間
僕は下宿をしたり、故家うちにいたり、あちらこちらに宿をかえてい
た。僕が大学を出たのは明治二十六年だ。元来大学の文科出の連
中にも時期によつてだいたい変わっている。高山が出た時代からぐ

つと風潮が変わってきた。上田敏君もこの期に属している。この期にはなかなかやり手がたくさんいる。僕らはそのままのいわゆる沈滞時代に属するのだ。

学校を出てから、伊予いよの松山の中学の教師にしばらく行つた。

あの『坊っちゃん』にあるぞなもしの訛なまりを使う中学の生徒は、こ

この連中だ。僕は『坊っちゃん』みたようなことはやりはしなかつたよ。しかしあの中にかいた温泉なんかはあつたし、赤手拭あかてぬぐい

をさげてあるいたことも事実だ。もう一つ困るのは、松山中学に

あの小説の中の山やま嵐あらしという綽名あだなの教師と、寸分すんぶんも違たがわぬの

がいるというので、漱石はあの男のことをかいたんだといわれているのだ。決してそんなつもりじゃないのだから閉口へいこうした。

松山から熊本の高等学校の教師に転じて、そこでしばらくいて、後に文部省から英国へ留学を命ぜられて、行って帰って来て、今は大学と一高と明治大学との講師をやっている。なかなか忙しいんだよ。

落語はなしか。落語はすきで、よく牛込の肴さかなまち町の和良店わらだなへ聞きに

でかけたもんだ。僕はどちらかといえは子供の時分には講釈がすきで、東京中の講釈の寄席よせはたいいて聞きに回った。なにぶん兄らがそろって遊び好きだから、自然と僕も落語や講釈なんぞが好きになっちゃったのだ。落語家はなしかで思い出したが、僕の故家いえからもう少し穴八幡のほうへ行くと、右側に松本順という人の邸やしきがあった。あの人は僕の子供の時分には時の軍医総監ではぶりがきい

てなかなかいばったものだった。円遊えんゆうやその他の落語家がたくさん出入りしておった。

——ざっと僕の昔を話したらこんなものだ。この僕の昔の中には僕の今もだいはいつているようだね。まあよいようにやっておいてくれたまえ。

青空文庫情報

底本：「吾輩は猫である（他一編）」旺文社文庫、旺文社

1965（昭和40）年7月10日初版発行

1969（昭和44）年7月1日重版発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：土屋隆

2005年9月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

僕の昔

夏目漱石

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>